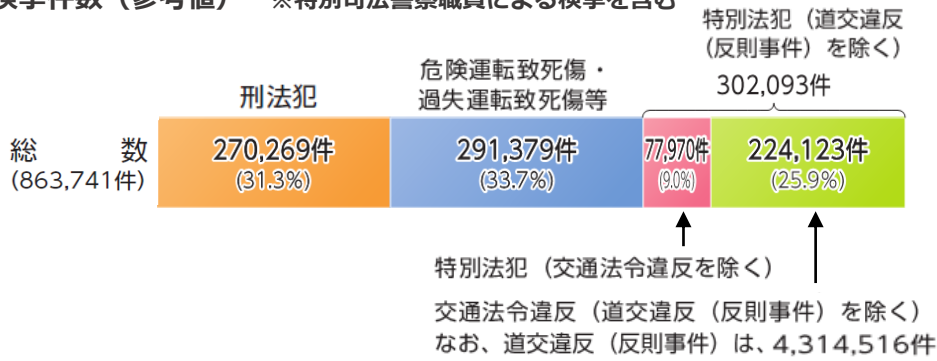
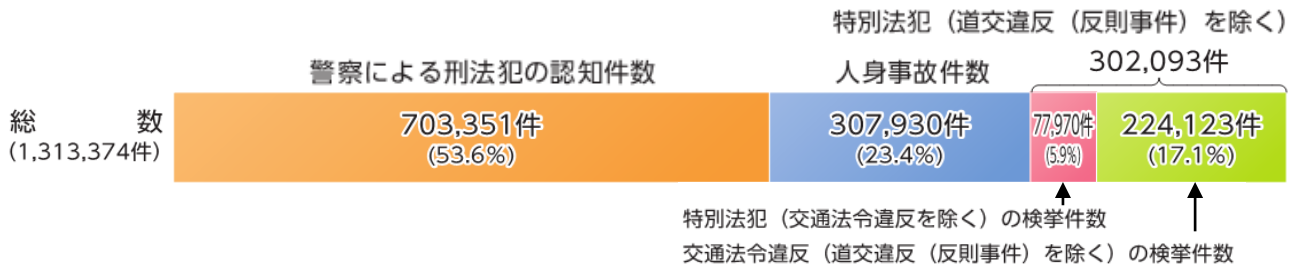


R6年版 犯罪白書の概要

▶ 検挙件数（参考値） ※特別司法警察職員による検挙を含む



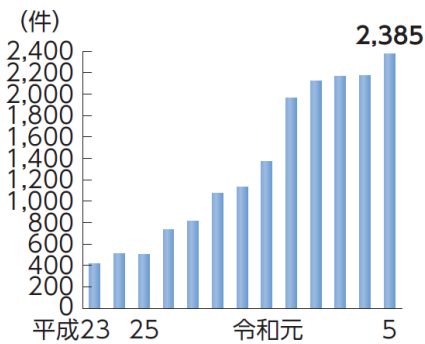
▶ 認知件数等（参考値）



※ 刑法犯以外は、それぞれ警察による刑法犯の認知件数におおよそ匹敵すると考えられるものを参考として用いた

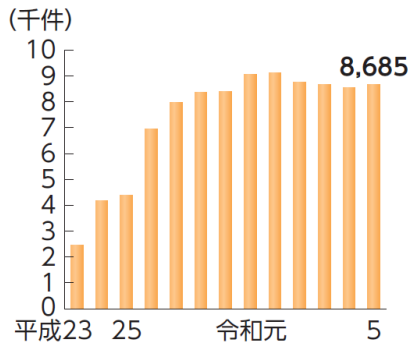
▶ 特に留意を要する犯罪類型 —検挙件数の推移—

① 児童虐待に係る事件



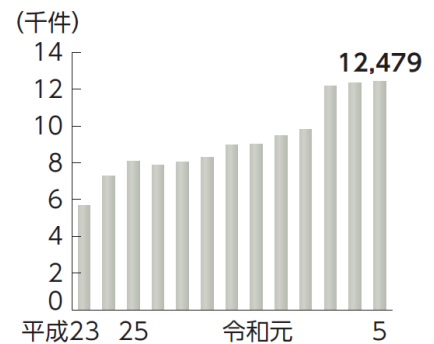
前年比204件（9.4%）増

② 配偶者からの暴力事案等



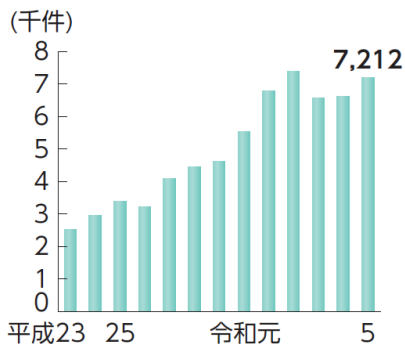
前年比104件（1.2%）増

③ サイバー犯罪



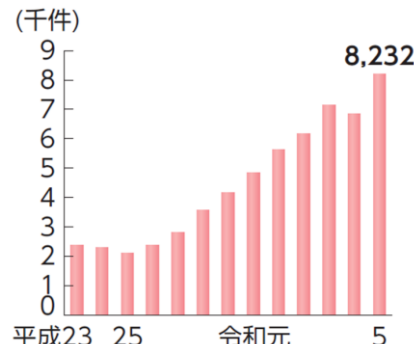
前年比110件（0.9%）増

④ 特殊詐欺



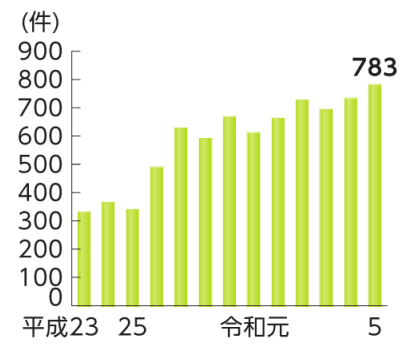
前年比572件（8.6%）増

⑤ 大麻取締法違反



前年比1,344件（19.5%）増

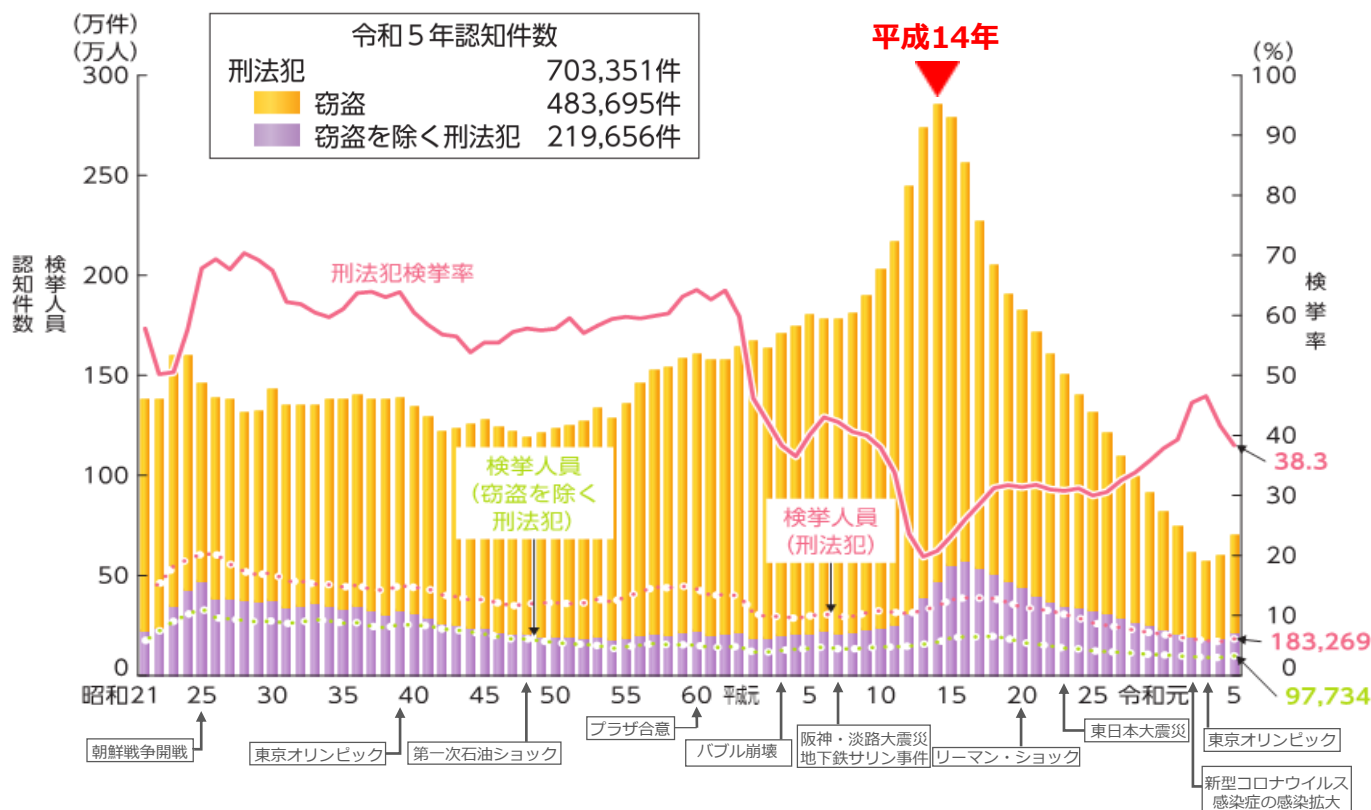
⑥ 危険運転致死傷



前年比48件（6.5%）増

▶ 刑法犯 — 認知件数・検挙人員・検挙率の推移 —

(昭和21年～令和5年)



刑法犯の動向

認知件数

- ・ H14 (約285万件) をピークに減少
- ・ R4 から **2年連続増加**
- ・ R5 は70万3,351件 (前年比17.0%増)

■ 窃盗

- ・ H15以降減少
- ・ R4 から **2年連続増加**
- ・ R5 は48万3,695件 (前年比18.6%増)
 - 自転車盗 16万4,180件 (前年比**27.4%増**)
 - 万引き 9万3,168件 (前年比11.4%増)
- ・ 刑法犯の認知件数の**約7割**

■ 傷害

- ・ H16以降減少傾向
- ・ R4 から **2年連続増加**
- ・ R5 は2万2,169件 (前年比13.6%増)

■ 詐欺

- ・ R3 から **3年連続増加**
- ・ R5 は4万6,011件 (前年比**21.3%増**)
- 特殊詐欺も3年連続増加

■ 不同意性交等

- ・ **H29以降増加傾向**
- ・ R5 は2,711件 (前年比**63.8%増**)

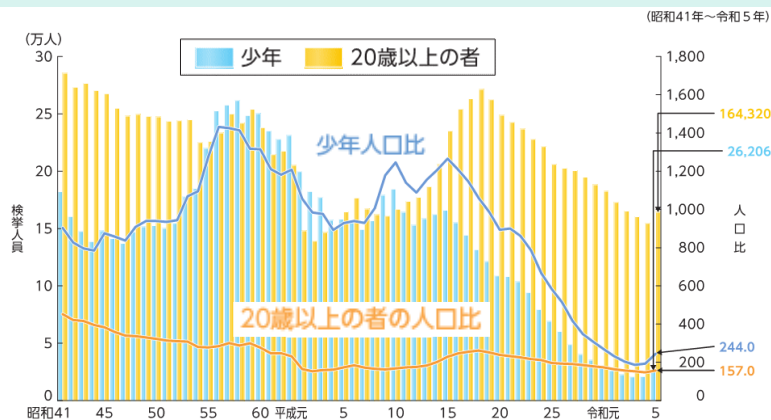
■ 不同意わいせつ

- ・ H26から減少
- ・ R3 から **3年連続増加**
- ・ R5 は6,096件 (前年比**29.5%増**)

■ 性的姿態撮影等処罰法違反

- ・ R5.7施行 2,538件

▶ 少年による刑法犯 — 検挙人員・人口比の推移 —



- **検挙人員** H16以降減少、R4 から **2年連続増加**
R5 は2万6,206人 (前年比**25.3%増**)

- **人口比** 低下傾向、R4 から **2年連続上昇**
R5 はピークであるS56の約6分の1
20歳以上の者の人口比に比して高い

■ R5 検挙人員 (人口比) ※犯行時の年齢による

- ・ **18、19歳** : 5,422人 (241.6)
前年比698人増 (34.0上昇)
- ・ **16、17歳** : 7,595人 (351.8)
前年比1,677人増 (76.8上昇)
- ・ **14、15歳** : 5,932人 (274.6)
前年比1,687人増 (79.3上昇)
- ・ **14歳未満 (触法少年)** : 7,257人 (173.7)
前年比1,232人増 (30.9上昇)

薬物犯罪

■覚醒剤取締法違反 検挙人員

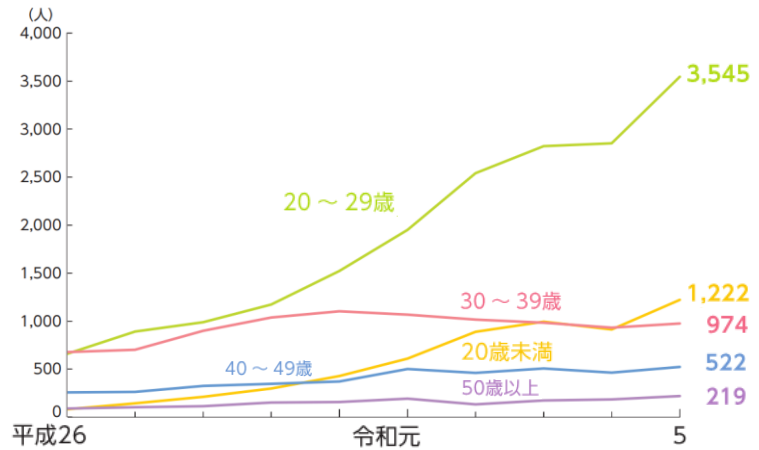
- ・H13以降減少傾向
- ・R元以降5年連続で1万人を下回る
- ・R5は6,073人※（前年比3.4%減）

■大麻取締法違反 検挙人員

- ・H26以降若年層を中心に増加傾向
- ・R5は6,703人※（前年比20.9%増）
 - 20歳代 3,545人（同24.3%増）
 - 20歳未満 1,222人（同34.0%増）

※警察のほか、特別司法警察員が検挙した者を含む

▶ 大麻取締法違反 一検挙人員の推移（年齢層別）



高齢者による犯罪

■刑法犯 検挙人員

- ・H28以降減少
- ・R5は4万1,099人（前年比5.0%増）

■高齢者率

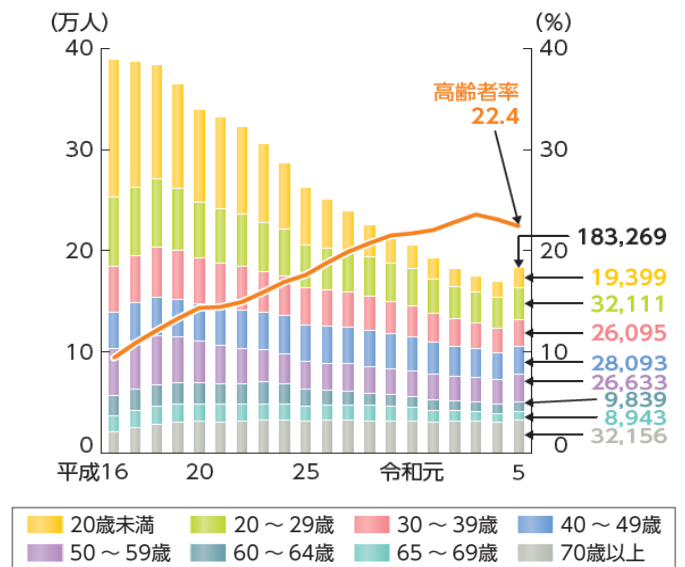
〔刑法犯検挙人員に占める65歳以上の者の比率〕

- ・H10以降上昇傾向
 - ※H28～R3の高齢者率の上昇は、高齢者以外の検挙人員の減少幅が、高齢者の検挙人員の減少幅よりも大きいことによる。
- ・R5は22.4%（前年比0.7pt低下）

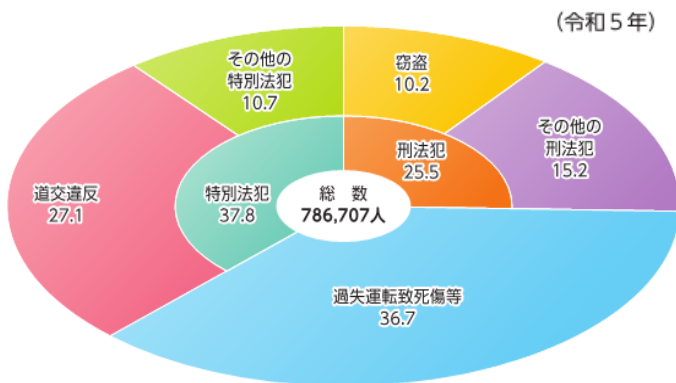
■罪名別

- ・他の年齢層に比べて窃盗の割合が高い

▶ 刑法犯 一検挙人員（年齢層別）・高齢者率の推移

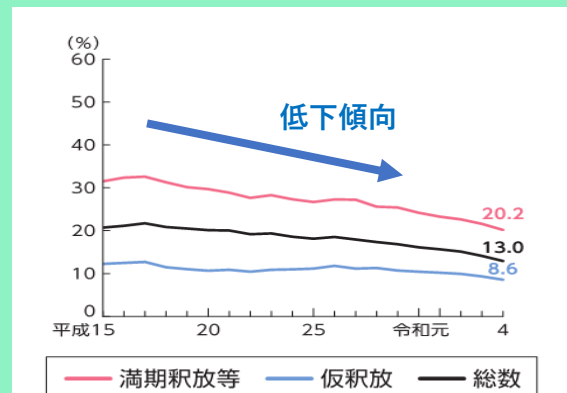


▶ 検察庁新規受理人員



- 刑法犯 20万373人（前年比10.2%増）
 - ・窃盗 8万 439人
 - ・その他の刑法犯 11万9,934人
- 過失運転致死傷等 28万8,827人（前年比1.9%増）
- 特別法犯 29万7,507人（前年比7.8%増）
 - ・道交違反 21万3,176人
 - ・その他の特別法犯 8万4,331人

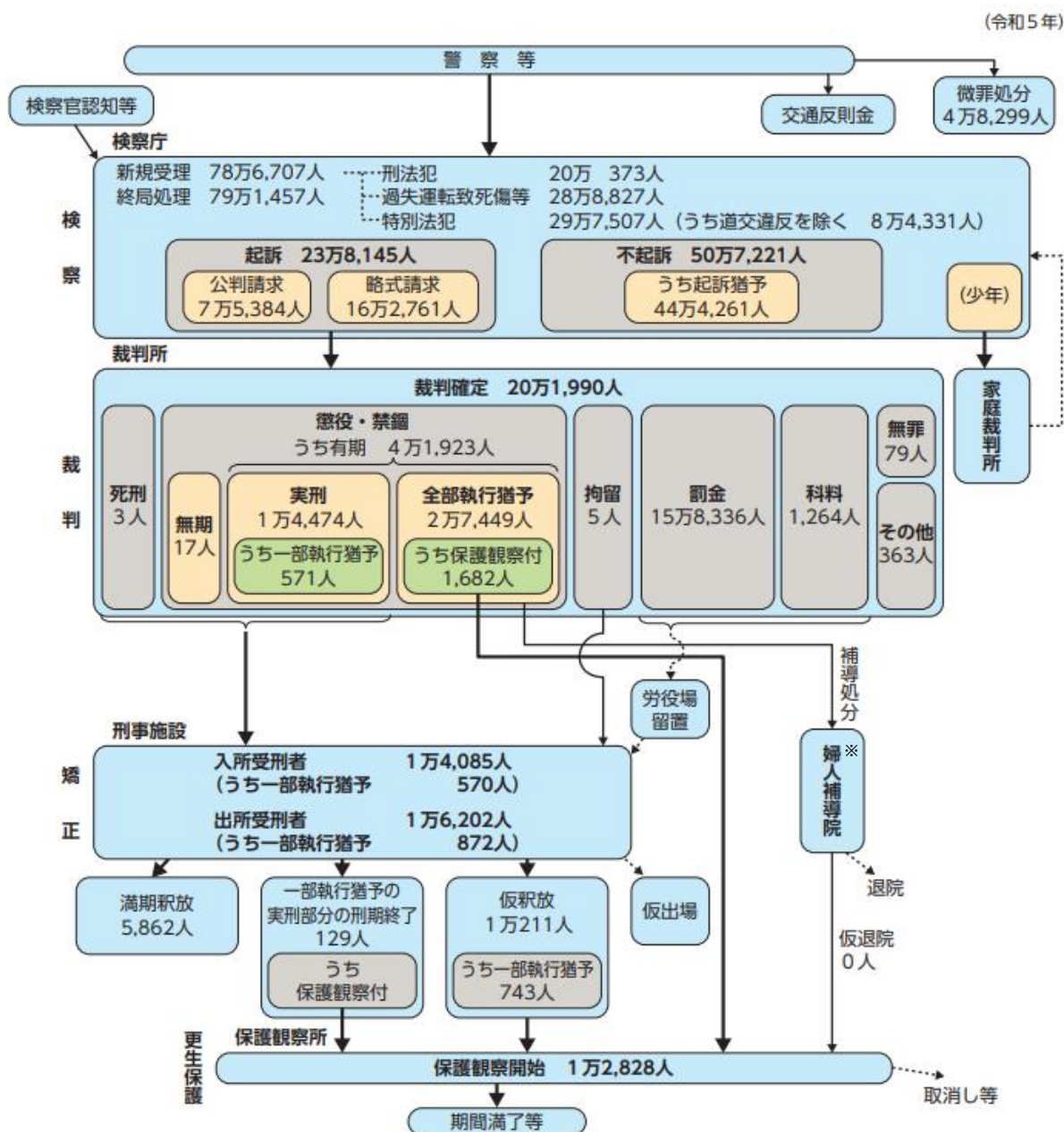
▶ 出所受刑者の出所事由別2年以内再入率の推移



■5年以内（R元出所者）再入率

- ・総数 34.1%
- ・満期釈放者等 43.6%
- ・仮釈放者 27.4%

犯罪者処遇の概要



※ 婦人補導院は、困難な問題を抱える女性への支援に関する法律（令和4年法律第52号）により、売春防止法（昭和31年法律第118号）において補導処分の規定が削除され、R6.4.1に廃止

[裁判]

裁判確定人員

20万1,990人（前年比0.7%増）

全部執行猶予者の保護観察率

6.1%（前年比0.1pt低下）

裁判員裁判第一審判決人員

807人（前年比69人増）

[矯正]

入所受刑者人員

1万4,085人（前年比2.6%減）

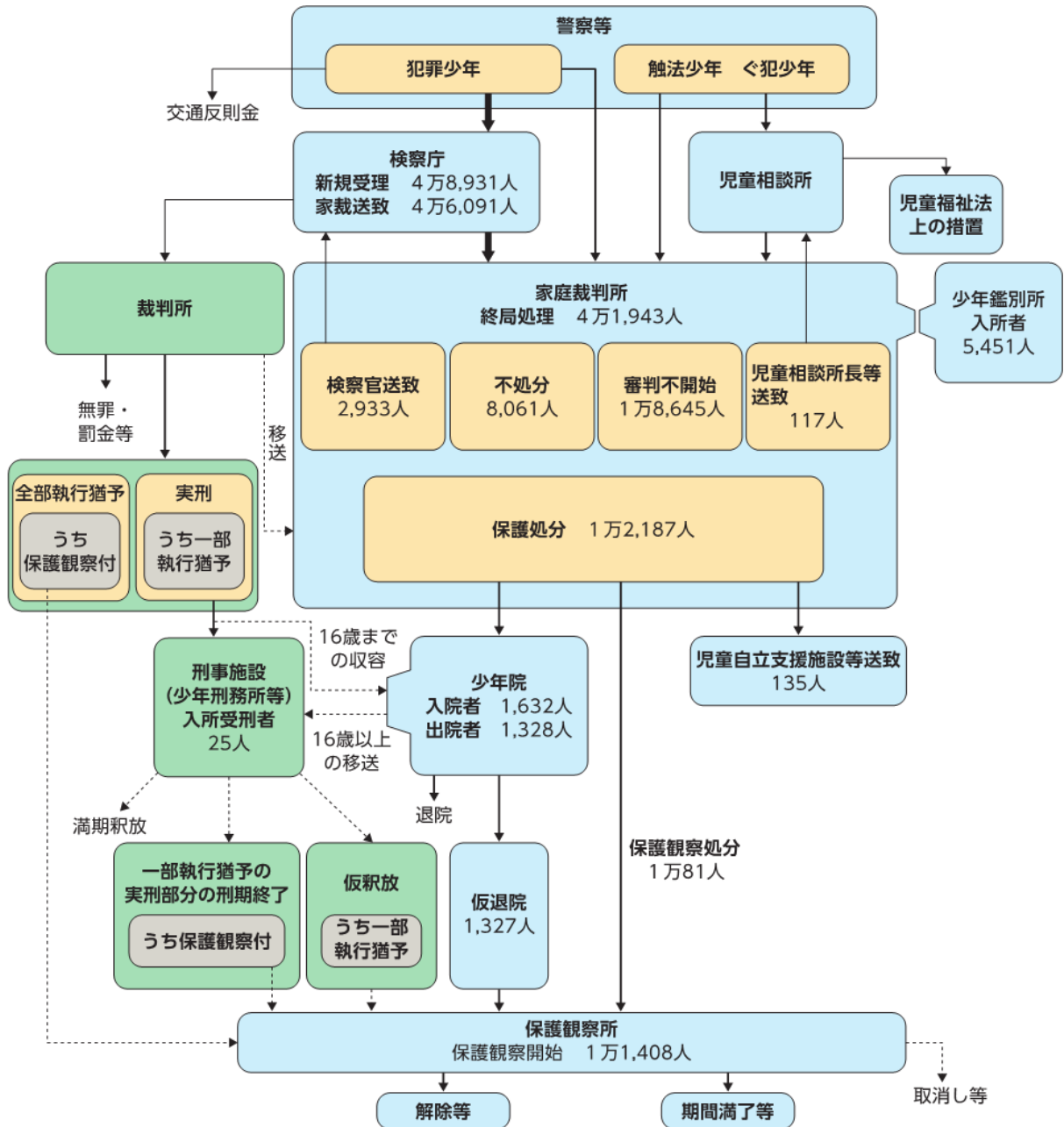
[更生保護]

仮釈放率

63.0%（前年比0.9pt上昇）

非行少年処遇の概要

(令和5年)



[検挙]

刑法犯検挙人員

- ・ R5は2万6,206人（前年比25.3%増）
- ・ 窃盗が1万4,159人と最も多い

危険運転致死傷・過失運転致死傷等検挙人員

- ・ R5は8,562人（前年比4.7%減）

特別法犯検挙人員

- ・ R5は5,033人（前年比8.5%増）
- ・ 薬物犯罪が1,401人と最も多い

[矯正]

少年院入院者の人員

- ・ H13以降減少傾向
- ・ R5は1,632人（前年比22.5%増）
- うち特定少年（※）は806人

[更生保護]

保護観察開始人員（保護観察処分）

- ・ H11以降減少
- ・ R5は1万81人（前年比10.7%増）
- うち特定少年（※）は5,806人

※保護処分決定時

1 概要

女性犯罪者の傾向・特徴を踏まえ、 その困難に応じた処遇・支援の在り方について考察

point
01

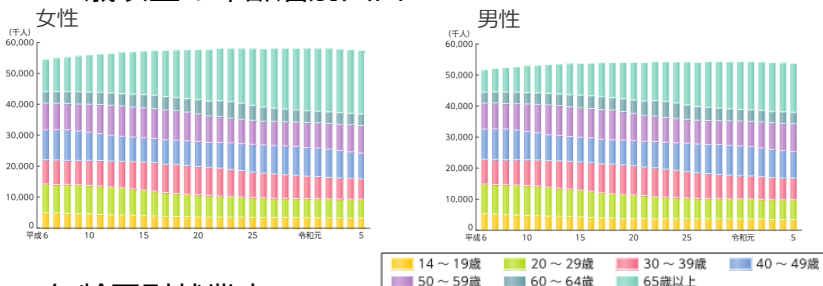
近年の社会生活の状況を見るとともに、各種統計に基づいて女性による犯罪の動向等を分析

point
02

女性受刑者の傾向・特徴を分析し、再犯防止又は円滑な社会復帰を図る上で留意すべき点について検討（特別調査）

2 近年の社会生活の状況

■ 14歳以上の年齢層別人口



▶ R5.10.1現在の総人口
→ 1億2,435万2千人
女性 6,385万9千人(51.4%)
→ 男女共14～29歳は減少傾向、
65歳以上は増加傾向

■ 年齢層別就業率

▶ 女性はいずれの年齢層においても男性より就業率が低い
(R5) 女性(65歳未満)の各年齢層：7～8割程度
男性(65歳未満)の各年齢層：9割前後

■ 配偶者・交際相手からの暴力の被害経験の有無

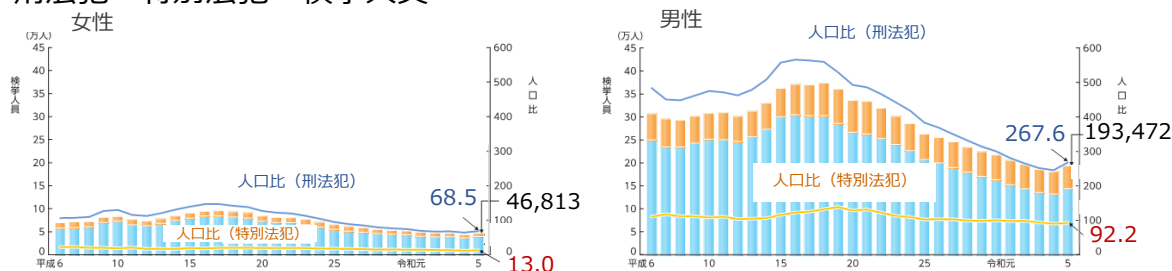
※暴力＝身体的暴行、心理的攻撃、経済的圧迫、性的強要の4項目をいう

▶ 男女：4項目について、それぞれ「まったくない」は8～9割程度 ※いずれも女性＜男性

3 女性による犯罪の動向等

検挙

■ 刑法犯・特別法犯－検挙人員－



▶ 検挙人員
女性＜男性

▶ 女性比(R5) ※1
19.5%

▶ 人口比(R5) ※2 刑法犯 女性68.5、男性267.6
特別法犯 女性13.0、男性92.2

※1 検挙人員総数のうち女性の占める比率

※2 14歳以上の男女別10万人当たりの検挙人員

■ 窃盗－検挙人員－

(R5) 女性2万6,712人(女性総数の57.1%)
男性5万8,823人(男性総数の30.4%)

▶ 女性の検挙人員 H17が最多
▶ 窃盗の中で万引きの割合 女性H6以降75%以上
(R5) 女性75.7%＞男性49.6%

万引きの微罪処分率※
一貫して女性＞男性
(R5) 女性48.5%、男性38.5%
※万引きの検挙人員に占める微罪処分により
処理された人員の比率

■ 薬物事犯※ - 検挙人員 - ※覚醒剤取締法違反、大麻取締法違反、麻薬取締法違反、あへん法違反、毒劇法違反及び麻薬特例法違反
 (R5) 女性1,895人(女性総数の4.0%) 男性1万1,551人(男性総数の6.0%)

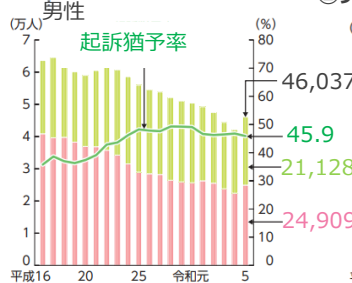
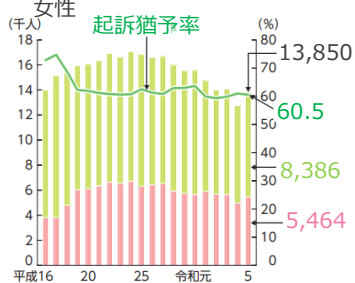
- ▶ 女性の検挙人員 H6以降減少傾向
- ▶ 薬物事犯の中で覚醒剤取締法違反の割合 女性H7以降最も高く 5割以上
 (R5) 女性58.3% > 男性40.0%

検察

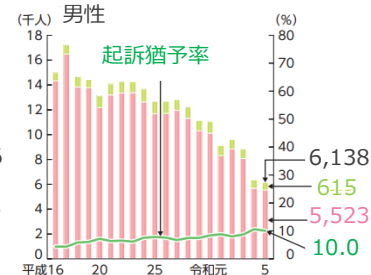
■ 起訴・起訴猶予人員、起訴猶予率(窃盗、覚醒剤取締法違反)



① 窃盗



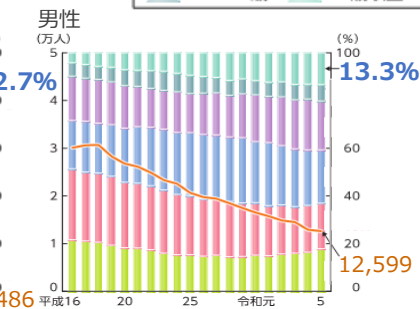
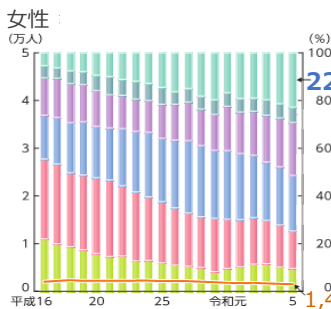
② 覚醒剤取締法



- ▶ 起訴人員 女性 < 男性
- ▶ 起訴猶予率 女性 > 男性

矯正

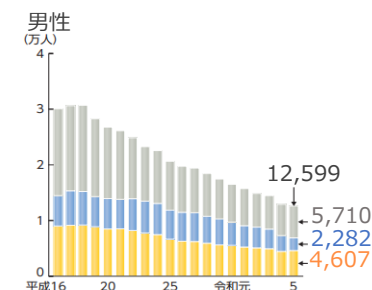
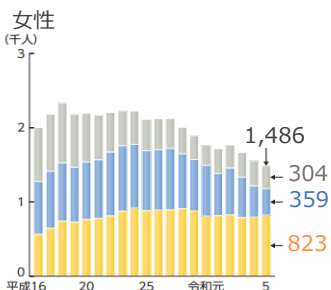
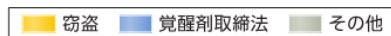
■ 入所受刑者 - 年齢層別構成比 -



- ▶ 女性 (65歳以上) > 男性 (65歳以上)
- ▶ 女性 (65歳以上) R5はH16の約4.2倍

➡ 近年は特に高齢者の割合が上昇

■ 入所受刑者 - 罪名別人員 -



- ▶ 女性 窃盗 + 覚醒剤取締法違反
 H23以降約8割(男性6割未満)

■ 入所受刑者 - その他の比較 -

- ▶ 入所度数 「1度」 女性 (5割以上) > 男性 (約4割)
- ▶ 刑期別(懲役刑) 「2年以下」 女性 (6割以上) > 男性 (6割を下回る)
- ▶ 婚姻状況 「有配偶」 女性 > 男性、「未婚」 女性 < 男性
- ▶ 有職者率 女性 < 男性 (R5) 女性17.6%、男性33.7%

■ 出所受刑者 - 人員・仮釈放率・帰宅先 -

- ▶ 女性の出所受刑者人員 H25をピークに減少傾向
- ▶ 仮釈放率 H16以降女性 (約7~8割) > 男性 (約5~6割)
- ▶ 女性の出所受刑者の帰宅先
 親族※ H16以降女性 (約5~6割) > 男性 (約4~5割) ※「父・母」「配偶者」「兄弟姉妹」等の合計

女性は男性と比べて比較的早期に社会復帰する傾向

保護観察

■ 保護観察開始人員

- ▶ 仮釈放者（全部実刑者・一部執行猶予者）
（R5）女性1,367人<（男性8,844人）
- ▶ 保護観察付全部・一部執行猶予者
（R5）女性419人<（男性2,198人）

■ 保護観察終了人員（終了事由別構成比）

- ▶ 仮釈放者・保護観察付全部執行猶予者の「期間満了」 男女で大差なし
- ▶ 保護観察付一部執行猶予者の「期間満了」 R元以降女性>男性
- ➡ もっとも、刑の一部執行猶予制度が始まって間もないことから推移を見つつ慎重に検討する必要

4 特別調査

女性受刑者の傾向も時代により変化 ➡ 現在の女性犯罪者の実態を把握し、より効果的な処遇・支援の在り方等の検討に資する資料を提供するため調査を実施

調査の概要

R4.7.1～R4.12.31の間に刑事施設において新たに刑執行開始時調査を実施した女性受刑者及び男性受刑者に対する調査（分析対象 女性461人、男性447人、合計908人）

属性等		女性受刑者	男性受刑者	属性等		女性受刑者	男性受刑者
年齢	20～29歳	52人(11.3%)	105人(23.8%)	婚姻状況	未婚	103人 (22.9%)	213人 (48.3%)
	30～39歳	78人(17.0%)	93人(21.0%)		有配偶	159人 (35.4%)	60人 (13.6%)
	40～49歳	112人(24.3%)	97人(21.9%)		離別	158人 (35.2%)	163人 (37.0%)
	50～59歳	95人(20.7%)	77人(17.4%)		死別	29人 (6.5%)	5人 (1.1%)
	60～64歳	31人 (6.7%)	23人 (5.2%)				
	65歳以上	92人(20.0%)	47人(10.6%)				

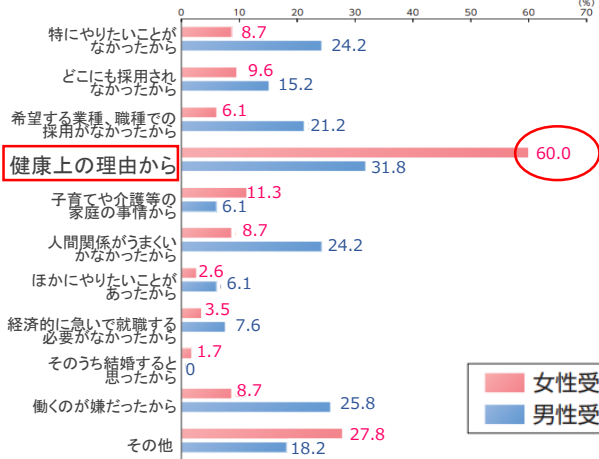
① 男女の比較 <分析対象者総数を男女2群に分けて分析（女性461人、男性447人）>

- 今回受刑することになった事件 ▶ 女性 薬物犯罪「あり」43.7%、窃盗「あり」57.7%
（男性 薬物犯罪「あり」34.3%、窃盗「あり」43.3%）
- 精神疾患あり ▶ 女性53.5%> 男性22.6%
▶ 精神疾患の病名
女性では「うつ病・双極性障害（躁うつ病）」、「不安障害（パニック障害など）」、「依存症（薬物・アルコール・ギャンブルなど）」の順
- 慢性疾患あり ▶ 女性38.1%> 男性28.2%

薬物依存を含む精神疾患等による心身の不安定な健康状態の者が多い

- 就労状況（無職+失業中）※ ▶ 女性32.0%+5.6%> 男性13.2%+6.2% ※65歳未満

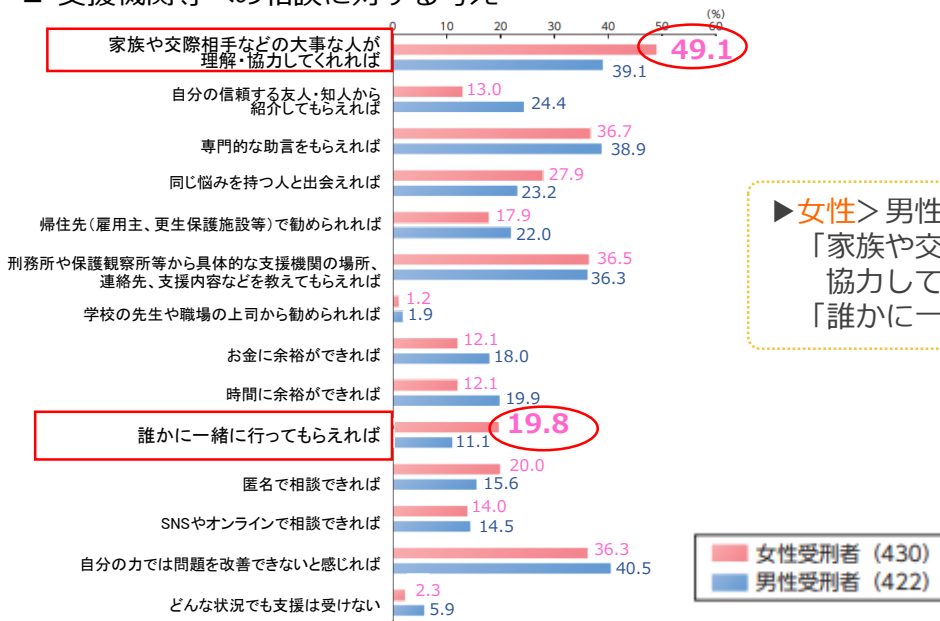
■ 働いていなかった理由※



▶ 男女共「健康上の理由から」が最も高い
➡ 女性60.0%> 男性31.8%

心身の不安定な健康状態のため自立的な生活が困難な者が多い

■ 支援機関等への相談に対する考え



▶女性>男性

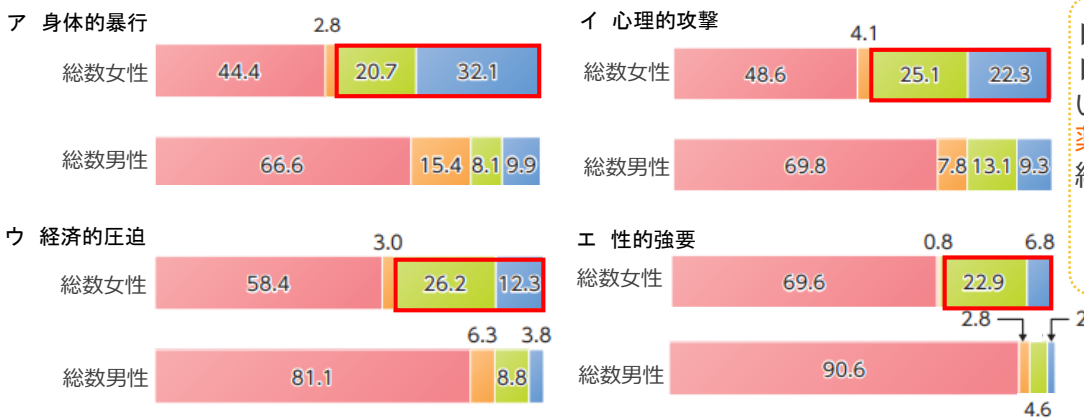
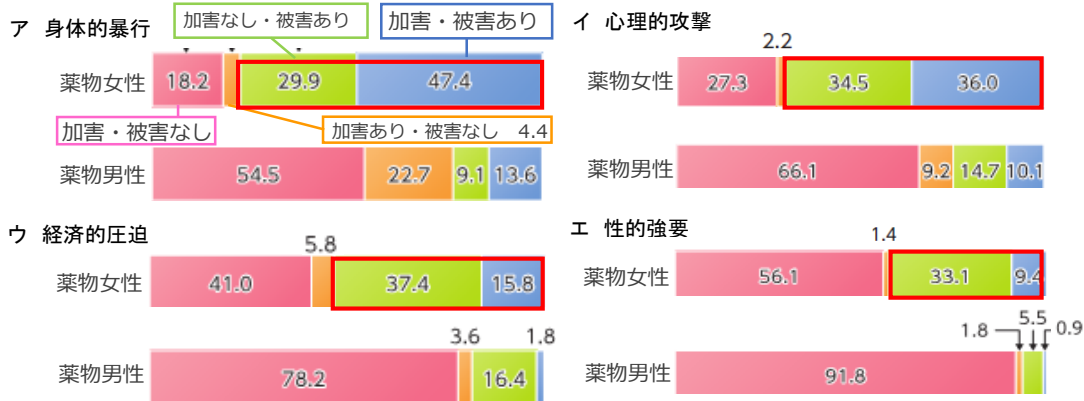
「家族や交際相手などの大事な人が理解・協力してくれれば」
「誰かに一緒に行ってもらえれば」

親族や身近な人等の理解や協力があれば支援機関等への相談につながる可能性あり

②薬物事犯者 <①のうち薬物事犯者(女性155人、男性126人)を男女2群に分けて分析し、①の男女と比較>

▶特に薬物事犯者の女性について特徴的な傾向が見られた項目を取り上げる

■ 配偶者・交際相手間の加害・被害経験



▶加害なし・被害あり
▶加害・被害あり
いずれも
薬物女性>薬物男性
総数女性>総数男性

※さらに
薬物女性>総数女性

■ 小児期逆境体験 (ACE※) の経験の有無

▶総じて薬物女性>薬物男性、総数女性

※ACE (Adverse Childhood Experiences) 18歳までの逆境体験12項目を質問

■ 自傷行為の経験

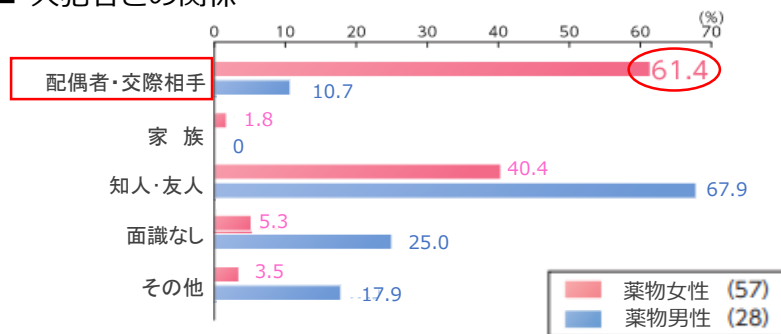
▶薬物女性 あり>なし

被害経験等多方面の問題が生きづらさの要因の一つとなっている者もいる

■ 共犯者あり

▶ 薬物女性38.5% > 薬物男性23.0%

■ 共犯者との関係



▶ 「配偶者・交際相手」
薬物女性 > 薬物男性

社会復帰の際に、配偶者が
支援者となり得ない場合がある

■ 反社会的行為をする者との関わりの有無等

▶ 「警察に捕まるような行為をする者との日常的な関わり」あり 薬物女性67.2% > 薬物男性48.6%

■ 困りごとの内容

▶ 「人間関係」薬物女性71.2% > 総数女性55.8%

交友関係や周囲の環境に問題

生きづらさがより複雑なものとなっている者もいる

③窃盗事犯者 <①のうち窃盗事犯者（女性251人、男性184人）を 60歳以上・60歳未満の男女4群に分けて分析>

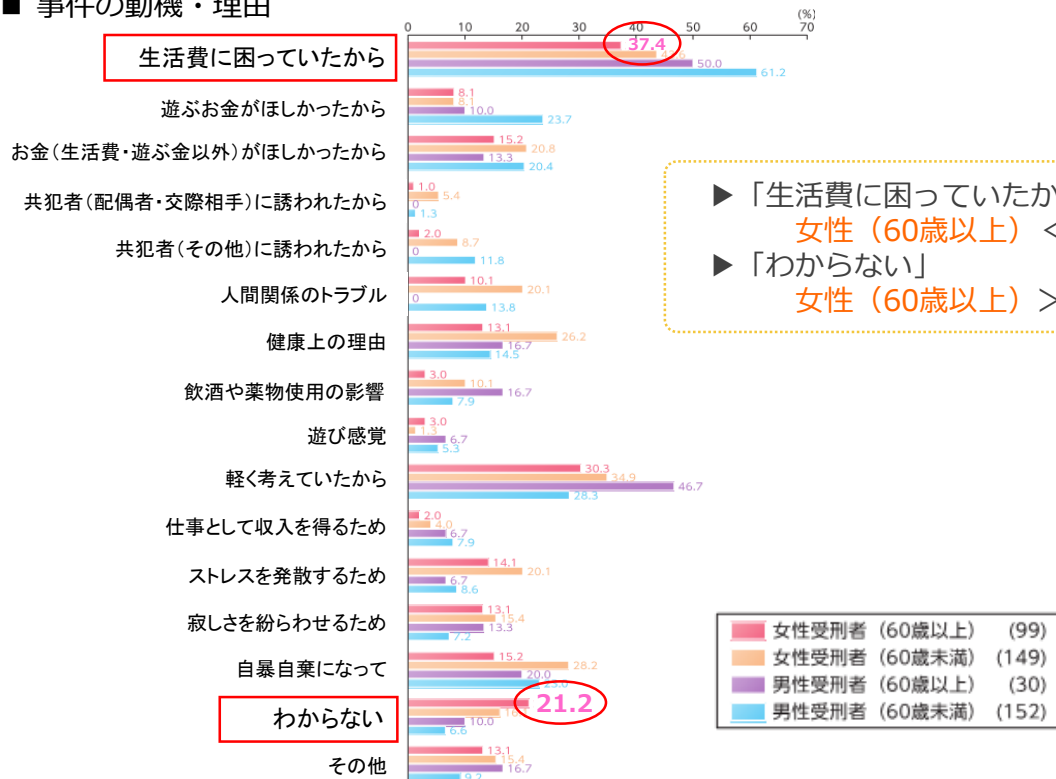
■ 年齢層

▶ 女性は男性より60歳以上の割合が高く40歳未満の割合が低い
➡特に女性（60歳以上）について特徴的な傾向が見られた項目を取り上げる

■ 窃盗の態様・手口

▶ 女性（60歳以上）「万引き」95.9%
※男性（60歳以上）「万引き」48.3%、女性（60歳未満）「万引き」73.8%
男性（60歳未満）「万引き以外の非侵入窃盗」42.4%

■ 事件の動機・理由

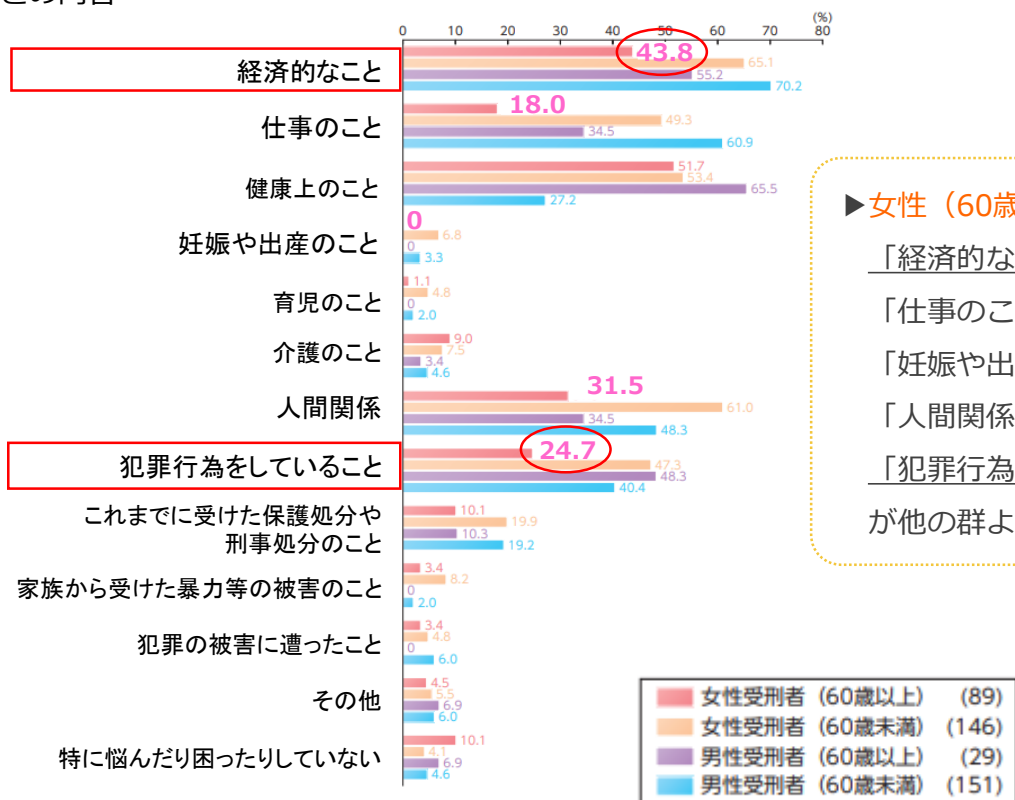


▶ 「生活費に困っていたから」が最も高いが、
女性（60歳以上） < 他の群
▶ 「わからない」
女性（60歳以上） > 他の群

■ 収入源

- ▶ **女性（60歳以上）**は「預貯金」が他の群より高い（28.1%）
cf.女性（60歳未満）15.6%、男性（60歳以上）0%、男性（60歳未満）12.6%

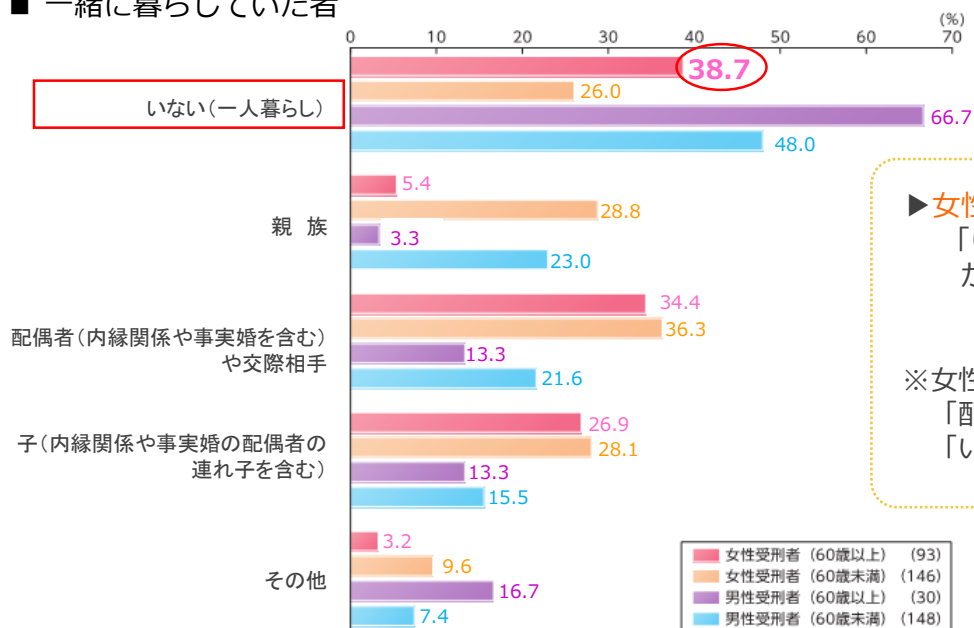
■ 困りごとの内容



▶ **女性（60歳以上）**
「経済的なこと」、
「仕事のこと」、
「妊娠や出産のこと」、
「人間関係」、
「犯罪行為をしていること」
が他の群よりも低い

女性（60歳以上）の中には、差し迫った生活困窮にはない者もいる

■ 一緒に暮らしていた者



▶ **女性（60歳以上）**
「いない（一人暮らし）」
が最も高い（38.7%）

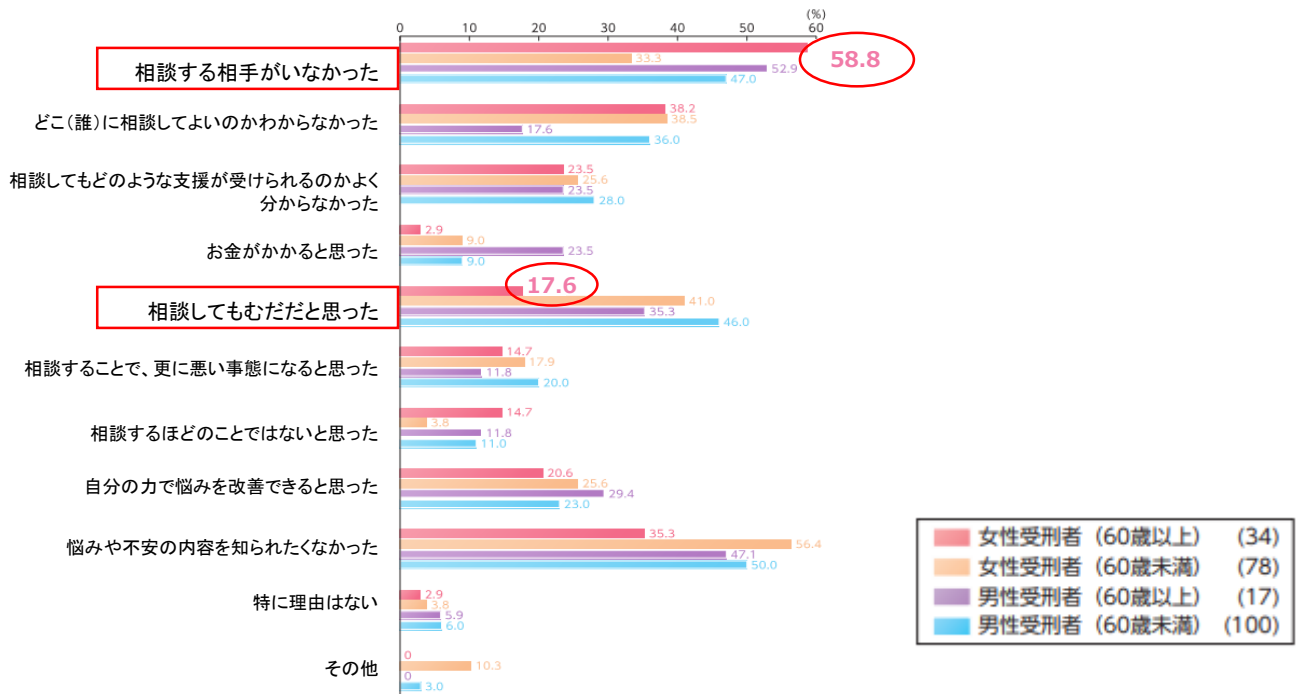
※女性（60歳未満）は
「配偶者や交際相手」が最も高く、
「いない（一人暮らし）」は26.0%

■ 基本属性等のうち婚姻状況

▶ **女性（60歳以上）** 未婚10.1%、有配偶38.4%、離別31.3%、死別20.2%

cf.「死別」女性受刑者（60歳未満）2.0%、男性受刑者（60歳以上）6.5%、男性受刑者（60歳未満）0.7%

■ 困りごとがあっても相談しなかった理由



▶ 女性（60歳以上）

「相談する相手がいなかった」が最も高い（58.8%）

※男性（60歳以上）52.9%

▶ 女性（60歳以上）

「相談してもむだだと思った」が他の群より低い（17.6%）

加齢に伴う環境の変化による不安・悩みや孤立が背景にある者も少なくない

5 女性犯罪者の再犯防止に向けた女性の抱える困難に応じた処遇・支援の在り方

①心身の健康の回復等に資する処遇・支援

- ・薬物依存について広く地域援助等で支援体制を構築
- ・精神疾患について職員研修を実施

②被害経験等による生きづらさを踏まえた処遇・支援

- ・保護観察所等において刑事施設等における処遇のノウハウを活用
- ・保護観察所の地域相談支援機能等を通じた医療・福祉関係機関との連携を今後も継続

③加齢に伴う不安・悩みや孤立に対する処遇・支援

- ・犯罪・非行に関する地域相談窓口（「りすたぼ」等）の広報の推進、情報提供の充実
- ・刑事司法手続終了後の継続的な支援（フォローアップ事業等）の充実・拡充
- ・各種地域活動への参加あっせんなどによる居場所作り